

ほのぼの

第21号

平成21年

3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL 078-732-5209

信行寺門信徒会



法要告知の高札除幕式執行される

はび姿の役員さん達による高札の除幕

今こそ親鸞聖人

親鸞聖人を知ることとは、「私自身」の生き方と方向を知ることになります。

不安定な世の中です。不安を煽(あお)るようなニュースが今、巷(ちまた)にあふれています。年金や福祉の問題、医療の問題。政治に対しても、人間に対しても不信感がただよみます。しかし、悲観的に受け取るばかりではダメです。このような時だからこそ人としてこの世に生まれた意義を問うことが急務です。親鸞聖人はこれよりもっともつと厳しい時代を90年間、生き抜かれたのですから、泣き言ばかりいってはおれません。押し流されるだけで一生を終るわけにはゆきません。

親鸞聖人のご一生は、わが身をもつてそのことを私たちに伝えることでした。お念仏の心をいただいて生きてくれ。浄土に向かって生きてくれ。自分の現実のすがたを知って生きてくれ。この世には人生の最後にいるまでズットあてになるものはないぞ。私が現状にどのよう立ち向かえばよいかを教えてください。は阿弥陀様だけだと教えて下さいました。

ありがたいことです。

信行寺住職



月田さんの揮毫による高札

信行寺の大遠忌

今年（平成二十一年）は平成七年一月十七年の阪神大震災のおこった日よりまる十四年になります。また本堂と庫裏が全焼の憂き目を見た当信行寺がみごとに再建されてから十年が経ちました。おりしも親鸞聖人の七百五十回の大遠忌を迎えるということになり、この御勝縁の有難さにひとしおの感銘を受けております。

人生五十年、百年の寿命。その時、自分がそこに生きており、その大法要に遇えるということ、これがまさに一期一会の世界だどつくづく感じることです。

昨年十二月十三日の報恩講の初日、冬晴れの穏やかな午後二時、御参詣の方々の前で、大遠忌法要の修行を知らせる高札の除幕式が行われました。

米田住職の切なるお心でもあり、御開山聖人の大遠忌に併せての自坊の震災復興十年を記念する大法要の立て札でした。

紅白の紐を十人の役員さんが引いて、除幕されて高札が現われた時の感激は忘れられません。門信徒の皆様、来る十一月二十一日、二十日の信行寺での大法要に御縁を戴けるようお体を大切にして日暮しいたしましょう。そして御一人でも多く御参詣できますように願っております。

（長井輝子 記）

除幕式で参拝の方々にご挨拶の住職



信行寺 住 職

信行寺では、親鸞聖人の七百五十回大遠忌を本年十一月二十一日・二十二日の両日にお勤めさせて頂いていただくことになりました。以前よりお知らせしてまいりましたように、ご本

山西本願寺では、平成二十三年に勤まります。これに先立つて勤めますので「お待ち受けの法要」ということとなります。

親鸞聖人の大遠忌

「遠忌」とは、五十回忌がすんだ後、五十年毎に勤められる法要のことをいいます。親鸞聖人にかぎり「大を冠して、「大遠忌（だいおんき）」というのです。五十年に一度の大法要ですから、一生にあえるかどうかの御勝縁です。

大震災で灰燼に帰した信行寺が、おかげさまで、多くの方々のお力添えと励ましによって復興させていた

だいてから、今年でちょうど十年になります。お力添えをいただいた方の中にはご高齢になっておられる方もいます。二年後のご本山の大遠忌に皆揃ってお参りできるかどうか？

それで、当寺では復興十周年にあたる年に「大遠忌」を勤めさせて頂き、皆様と共に尊いご縁を結んでいただきたく思い、本年に大法要

を修行することになりました。

世の中、暗いニュースの多い今だからこそ負けてはいられません。

一人ひとりの力を結集して大法要を成功させ、暗いムードを笑顔で吹き飛ばしましょう。

ご協賛のほどよろしくお願いたします。

記念事業

先般信行寺総代会を開き、次のような法要事業に必要な予算額がきまりました。

「記念事業費」として1232万円

- ① 本堂内欄間
- ② 礼拝堂前卓
- ③ 本堂用椅子
- ④ 本堂焼香卓
- ⑤ 礼拝堂大型テレビ
- ⑥ 「無量寿」の額

以上の設備費等です。

「法要経費」として655万円

《合計》1887万円の予算です。

報恩講法座

住職

弁円済度

毎年報恩講では、ここに掲げておられます「親鸞聖人伝絵」についてお話をしておりますが、今日はその伝絵の中の「弁円済度」の場所をお話します。

聖人が板敷山という所に居られた時、弁円という山伏が聖人の命を狙って、聖人の帰りを待ち受けていたのですが、果たすことができず、聖人の住まいに押しかけて命を奪わんとしたのですが、聖人の人となりを感じ入って回心するという物語なのです。

山伏姿の修験者は、占いや祈禱などをして自分の信者を増やしつづけておりました。ところが聖人の教えを慕って信者が聖人の所へ行くものですから、弁円は非常に腹を立てて、聖人を亡き者にしようと憎んでおっ



たわけてす。しかし、聖人に会った瞬間にいつべんに殺意が消え、弓や刀を放り捨てて聖人の信者になるのです。弁円は聖人から明法房という名をもらい他力の修行に励むのですが、聖人よりも先たつて亡くなるの

です。明法房が亡くなったと聞いて「めでたいことである」と言って喜ばれたそうです。

自力では到底浄土に生まれることのないこの身が、他力の修行に回心したため、浄土に生まれることができたことと喜ばれたのです。

仏教は自分がどのような者かを教えてくれます。それが安心（あんじん）というものです。心が安らかなる、心配のない、悩みや苦しみのない境地、それが浄土の世界なのです。死というものが、悩みや苦しんであつてはいけない。浄土に往生するのが「めでたい」という生き方、それが仏教の教えなのです。「浄土に帰るので心配するなよ」私らは数多くの別れを通して浄土を感じさせてもらうのです。そして浄土に生まれて、この世を照らす「ともし火」になるのです。

新春初法座



信行寺では、毎年一月五日に新年の初法座が修行されます。
新年を今年も無事に迎えられた喜びをわがちあい、阿弥陀さまに報恩感謝申し上げると共に、今年一年の決意をお誓いするのです

ご法座の後は、和気藹々のお食事
有志の方の手造りの味を賞味しながら、
尽きることのない話に花が咲きます。
今年もがんばりましょう。



初法座のお料理
お寺で用意するもののほかに、数人の方が得意の品を持ち寄ってくださり、素晴らしいメニューとなりました。おいしくいただきました。
60人分のお膳がずらり”

念仏奉仕団に参加して

おかげさま

辻 英子

昨年十一月のご本山念仏奉仕団に、二十回目の参加をさせて頂き、おかげさまで御本山から賞状と記念品を有難く頂戴いたしました。信行寺の皆様のおかげのおかげと、共に喜んで下さったお気持ちは何よりも嬉しゅうございました。

折りしも季節にふさわしく、篤信の方々が丹精をこめて育てられた見事な菊の花が展示されており、ふる里に帰らせて頂いた様な穏やかな気持ちで、鑑賞させて頂く事が出来ました。

思い返します時、信行寺様には主人の両親がお世話になっておりましたご縁で、私もお話を聞かせていただくようになりました。

最初の頃は、お念仏も声も出せず、お話の中の言葉も耳新しく、例えば一劫の説明で、「四十里四方の岩に、天女の羽衣で百年に一回なで、その岩が無くなるまでの間」とお聞きしても、おとき話のように思われ、どう受けとめればよいか分からず、もやもやとした気持ちが暫く続いておりました。

或る日、法話には歴史的表現と仏教的表現があるとお聞きし、更に人知では計りしれない広大無辺な如来様の智慧とお慈悲の世界、そのご恩の深さ、そして知識と智慧の違い等々、心に響くみ教を繰り返しくりかえしお聞きかせいただき、単に知識として聞こうとしていた自分に気付かせていただきました。

おみのり、は、聴聞を重ねさせていただくうちに、仏様の方から自然に身に沁み入るように届け下さっていることが知らされ、大変有難く感じています。

み光に照らし出された心の内側は、

我執ばかり、ただ懺悔の気持ちと、少しでもこれを取り越えていく為には、愈々聴聞を重ねさせていただくしかない自分であると痛感いたしております。

何も分かっていたいなかった、而も逃げ腰の我ままなこの私を見捨てることなく、つかまえてお導き下さっている大きな力、信行寺様に心から「おかげさま」と感謝いたしております。

合掌

第25回ご本山念仏奉仕団参加

今回記念すべき25回目の参加に際し、個人参加20回表彰辻英子さん、10回表彰小林元子さんでした。おめでとうございます。

又、初参加の人が石田智子、大澤時恵、武村はつる、畑早苗の四名の方々でした。ご苦労さまでした。(坊守)

書初め展

入選おめでとう

一月十六日から「そごう百貨店」で開催された神戸市立中小学校の書初展で、空城君の書道が三年連続入選されました。来年も更に研さんし、飛躍されんことを願っております。

また、門信徒会の林まさ子さんのひ孫紺谷美優さんも入選され、堂々とした力作に来場者の方々も感嘆されていました。

(月田 記)



全国児童生徒作品展

この度、「ご本山御正忌報恩講奉賛全国児童生徒作品展」に応募させて頂きましたところ、光輪の絵に佳作の賞を戴きました。お陰で親子揃って西本願寺へ参り、全国の小中学生の素晴らしい作品を目にする御縁となりました。

本年度も中学生までのお子さんの絵画・書道・作文を募ります。しめ切りは十月中旬です。

またお知らせ致しますので、どうぞ皆様の参加をお待ちしております。

(米田悦子)



信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

○ 三月二十八日(土) 午後一時より
法話 天岸浄円先生

○ 三月二十九日(日) 午後二時より
法話 信行寺住職



平成二十一年度

第九回門信徒会総会

日時 平成二十一年四月二十五日(土)

午後二時より四時まで

(おつとめ・総会・法話)

一年一回の総会です。門信徒の皆様の一
人でも多くのご参加をお待ちしております。

お願い 二十一年度会費(千二百円)の
ご入金をお願い致します。

花まつり

日時 四月十二日(日) 午後一時より
おつとめ・お話
◎ 手品と折り紙

旧跡参拝旅行

◎ 行先Ⅱ伊勢・東海方面・専修寺ほか
◎ 日時Ⅱ六月十一日(木)～十二日(金)
皆さん揃って楽しいバス旅行
お申し込みは信行寺まで、お待ちしております。



編集後記

ご本山では、親鸞聖人七百五十回大遠忌を来る平成二十三年に迎え、修復工事はもちろん、すべての工事が着々と進めておられます。信行寺でも大遠忌法要に併せての行事として、震災復興十周年法要が今秋計画されております。

今回の寺報記事、何卒お心に銘じていただければ幸いです。

(長井)